

## 頑張れ！さわかみ

(2002年の年頭で)

……人は一生仕事をして生きている、何人もそうである。君は何のために生きているかと問われれば、躊躇なくわたしは仕事のために生きていると答える……

昨年ある雑誌で昂然とそう述べていたのは、88歳の映画監督の新藤兼人さんである。これを読んだ時、私の胸にある種の感銘と共感が湧き起こった。あの時の興奮めいたものは何だったのだろうか。88歳という高齢域にある著名人が語った言葉だからそう感じたのだろうか。それもあつたと思うが、その言葉を受け取った私自身が無意識に「そうありがたい」と思い始めていたからではないだろうか。そう、私も、「君は何のために生きているか」と問われたら、躊躇なく「仕事のために生きている」と答えられるようになりたい。この願いは傲慢だろうが、年を取る毎に分かって来た事は、人生に、仕事を抜きにして楽しく愉快的老後など無いということである。

正月早々教訓めいたことを書いて恐縮だが、約束された場所を捨て、自ら独立投信会社を起こした方を紹介したいと思ったからである。この方は、さわかみ投信の澤上篤人さんである。

澤上さんは1947年生まれで今年55歳になる。証券アナリストとして華麗な経歴を持つ澤上さんは、86年からスイスのピクテ銀行日本法人であるピクテ・ジャパン社長を勤めていたが、96年その座を捨てて自らさわかみ投資顧問という会社を興した。そして現在、投資信託「さわかみファンド」1本を募集運用している。

この「さわかみファンド」は日本株式だけに投資する株式投信であるが、その基本ポリシーは従来の日本の投信にない特徴を持っている。澤上さんは会社設立趣旨で次のように述べている。少し長くなるが引用させて頂く。

(1) 日本経済を下支えしているのは市井に生きるサラリーマンおよびその家族、そして中小企業である。われわれは一般個人や家計の財産づくりを長期運用でお手伝いする。

(2) 日本には本格的な長期運用が存在しない。

われわれはそのパイオニアとなる

(3) 長期投資では世界の景気・産業・企業分析と経済社会動向に対する先読みが不可欠。われわれは運用能力の向上に全エネルギーを注入し、長期運用の分野において世界レベルの人材を多数輩出する。

(4) 長期投資を貫くには長期投資を是とする資金のみを集めたい。われわれは営業や宣伝は一切せず、信頼と実績で運用資金が集まる体制を築き上げる。

(5) 投資運用の世界はスモール・イズ・ビューティフルが鉄則。われわれは小さな経営に徹し、低コスト・オペレーションから生まれる収益余剰は顧客そして社会に還元する。

この心意気や良し。こうしてスタートした「さわかみファンド」は徐々に底辺を広げ、今では顧客数が2万7千名を超えファンド総資産は昨年末で263億円となった。そして個人客が全体の99%を占め、今年は顧客数5万名、ファンド資産500億円を目指すという。

もちろん日本の投信残高(約50兆円)から見れば微々たる残高に過ぎないし、証券投資の世界でも吹けば飛ぶような存在に違いない。しかし、一個人が興した投信会社が、やがて日本の金融構造の変革を促す起爆剤となることだってあるのだと思いたい。

一日、3日の日経新聞に掲載された恒例の「経営者・識者40人に聞く」今年の株価予測では、日経平均で安値9,000円、高値13,000円程度と見ている方が多かった。昨春よりも予測株価のレベルは下で、この10年、専門家の予測も下方へ切下げ続きという体たらくである。若し今年の株価も上記予測を下振れるとすれば、それこそ日本経済に最後のダメージを与える可能性が高くなる。株価から見ても日本経済は今正に分岐点にある。そうした中での「さわかみファンド」の行方は極めて重要だ。旧来の価値観から解放された独立系ファンドの成否こそ日本株式市場の再生の鍵を握っている。

もちろん私は「さわかみファンド」と何の利害関係もない。ただ澤上さんに頑張ってもらいたい。澤上さんは、おそらく残された生涯を賭けてこの仕事に従事するものと思う。そしてこの仕事への思いが成就する時、日本経済は復活を遂げ新たな展開に入っているものと思う。